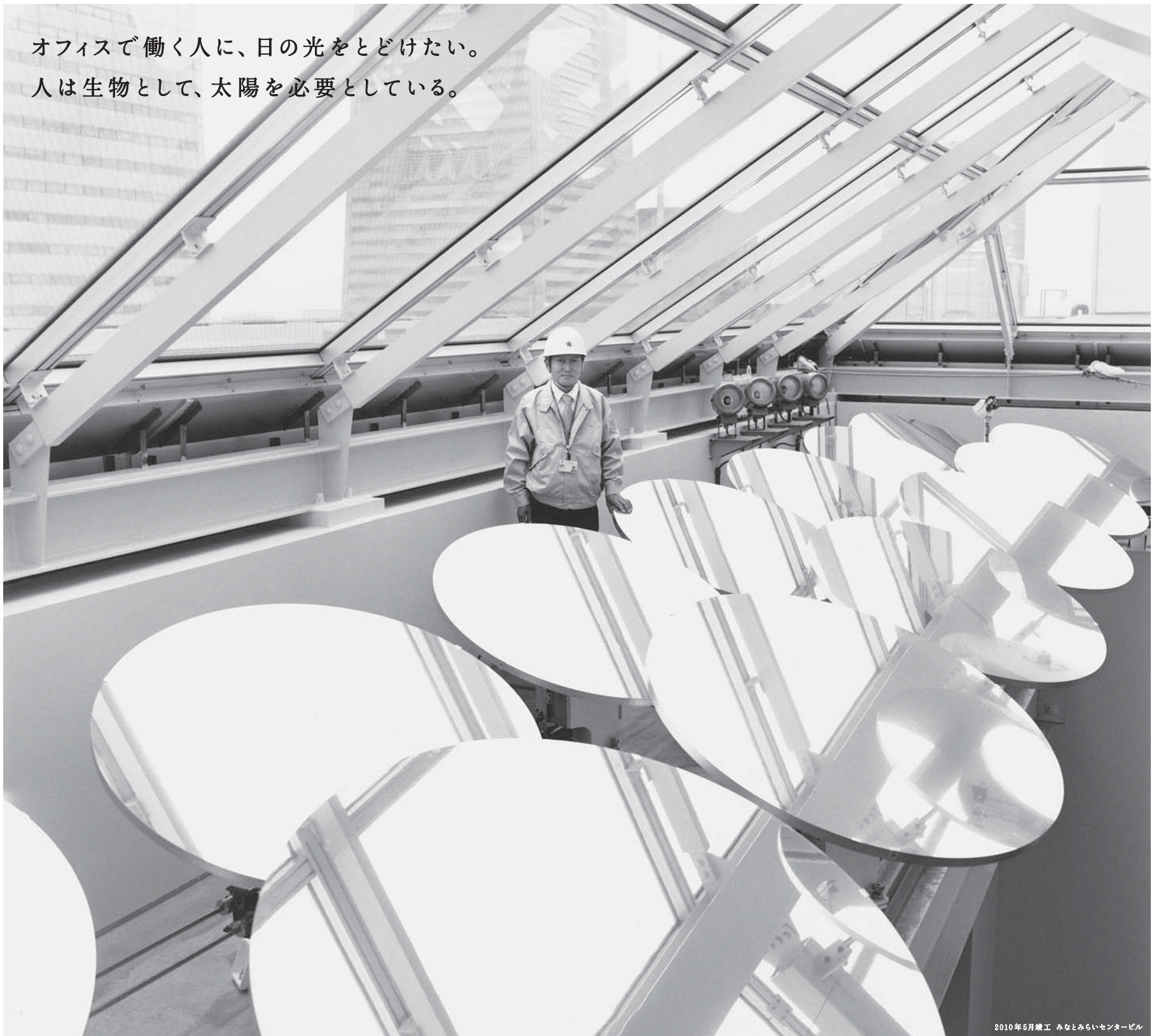


オフィスで働く人に、日の光をとどけたい。  
人は生物として、太陽を必要としている。



2010年5月竣工 みなとみらいセンタービル

### 第3話 太陽の光がひろがるオフィスビル

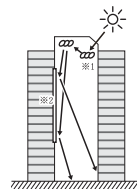
はるか1億4960万キロメートルの彼方から、人間のからだに届く、太陽の光。私たち人間は昔から、その光で、季節や、天気や、時間の移り変わりを感じてきた。しかし今、都市で働く人にとって、太陽の光に触れることができる機会は少ない。1日の大半をオフィスで過ごさなくてはならないからだ。

ワークプレイス・プロダクティビティという言葉がある。働く環境によって人の知的生産性は変化する、という考え方だ。自然を感じるオフィス環境は、体内時計を整え、知的生産性を高めると言われている。

人が、もっと気持ち良く働く環境をつくりたい。大成建設は、建物内に自然環境を取り入れる技術の開発を進めている。

#### 太陽光採光システム「T-Soleil」

「T-Soleil」(ティー・ソレイユ)は、人工照明の代わりに太陽の自然光を用いる、建物一体型の太陽光採光システムだ。仕組みはシンプル。ビルの天窓に取り付けられた採光ミラー<sup>※1</sup>が太陽を常時自動で追尾して、太陽光をビルの吹き抜け空間へと導く。導かれた光は建物内部に設置された別のミラーに当たり<sup>※2</sup>、柔らかく優しい質感の光に変わりながら拡散、あかりとして行き渡る。



朝なら朝、夕方なら夕方の明るさがあるから心地良い。外の環境がオフィス空間にやわらかに反映され、天気や時間をからだで感じる。「T-Soleil」の導入は、照明の消費電力を削減し環境負荷を減らすだけでなく、人間本来の感性を引き出し、ワークプレイス・プロダクティビティを高めることにもつながる。

#### 室内環境を、自然環境に近づけていく

環境への取り組みを考えると、自然に与える負荷を減らすという視点と、自然の力を積極的に生活に取り入れるという視点の両方を持つことが重要だ。私たちの暮らしは、ますます都市化していく。人がいきいきとする暮らしのために、自然をいかに生活環境に取り入れられるか。大成建設は、環境技術の更なる追求を進める。

# 環境問題を考える。 ゼネコンの責任は、重い。

**大成建設**  
TAISEI

For a Lively World